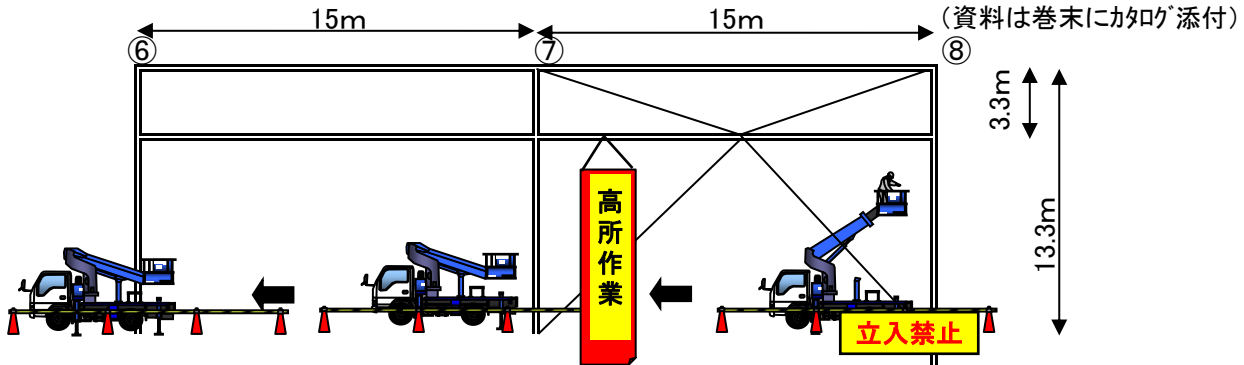


1. 現場調査・実測・墨出し

【1】 高所作業車設置

17mトラック積載式 1台をB通り⑧→⑦→⑥通り柱前に順に設置する。

- 安全のポイント…
- 高所作業車は水平な強固な地盤に配置して、アウトリガーを最大張出しする。
 - 高所作業車と調査する下部はカラーコーンとバーで区画をする。



【2】 高所作業車に2人が乗込む。(作業車のオペレーター、図面作成者)

- 安全のポイント…
- 安全帯を手摺に掛ける。建物に接触しないように一動作で操縦する。
 - 進行方向を指差し呼称で安全確認をおこなう。

調査・実測ポイント

- 既設部材の各サイズ(梁、ブレス、各PL、ボルト径と長さ)を実測する。
※図面と異なる時は、元請さんと協議する。
- 干渉する配管・配線の有無を目視点検する。
※干渉する時は、移設・養生・撤去を元請さんに依頼する。
- 柱脚部の躯体の内-内寸法を実測して、基礎鉄骨の取付け位置を墨出しする。
- ⑥と⑦柱に新規PL取付け位置の墨出し

2. 6月20・21日作業のクレーン、高所作業車の設置位置の確認

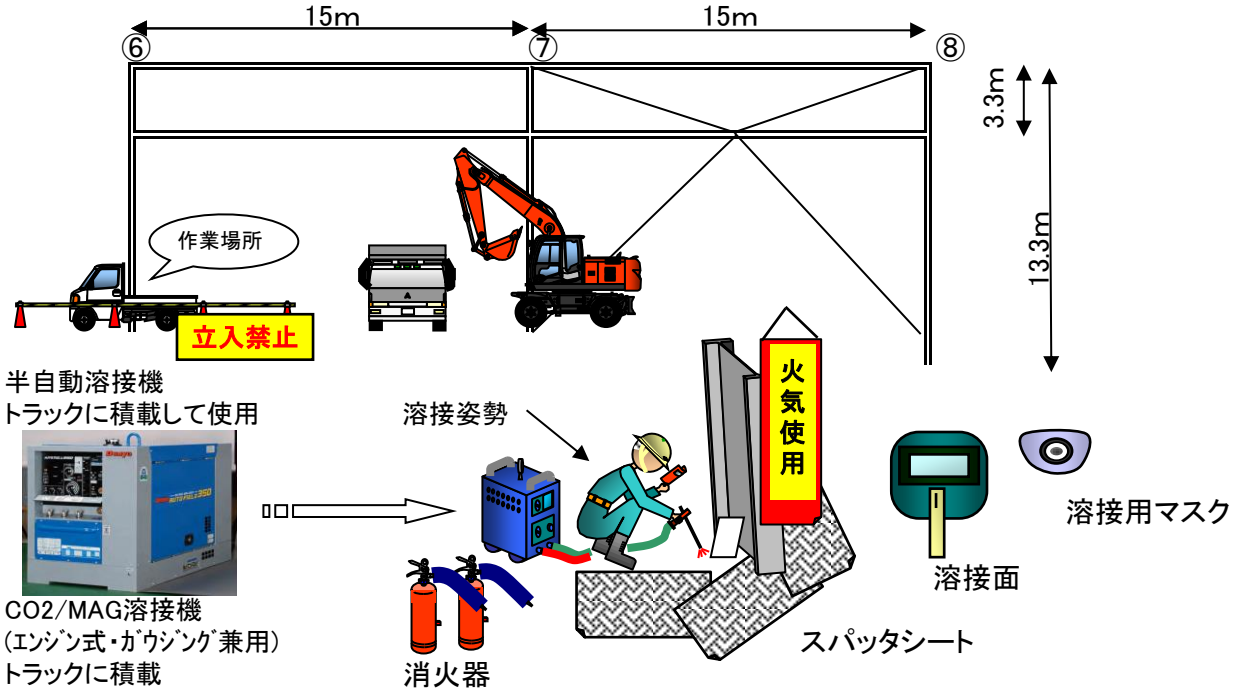
【1】 施主さんの資材・機械等の干渉するものが無いかを調査する。

- 安全のポイント…
- 事前に移動・撤去を依頼して、工場の操業に影響が出ないようにする。
 - 1. 【2】に記載の干渉する配管・配線も同様です。

1. 柱脚部のプレスシート取付け(ケレン~溶接)

【1】B通り⑥と⑦柱 (下段)

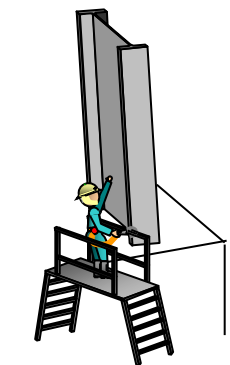
- 安全のポイント...
- 掘削手順(別途業者)と事前に調整して、お互いの作業がラップさせない。
 - 溶接機を積載したトラックと作業エリアをカラーコーンとバーで区画する。
 - 火元付近に消火器・水バケツ設置、スパッタシートで溶接火花養生をする。
 - 溶接面・溶接用マスク・革手袋等の保護具を装着して溶接を行う。
 - 発電機付き溶接機のボディアースの設置を行う。
 - 火気使用中の垂れ幕を掲げる。



2. ⑥と⑦柱 アンカー位置の曇出し(躯体部のケレンは済み)

3. ⑥と⑦柱 ケミカルアンカー打設

- 安全のポイント...
- ドリルの先を添えて電源を入れない。必ずドリル本体を両手で持つ。
 - 保護メガネ・マスクをを装着して作業を行う。
 - 掘削部への昇降は、ハシゴまたは立ち馬を使用して、道具は地上からの相番者から受け渡しを行う。
 - ドリルはアース線が付いた3芯の使用する。
 - アンカーボルト打込み時はボルトから手先を離す。



立ち馬(H600程度)
使用して掘削部へ
昇降する。

穿孔



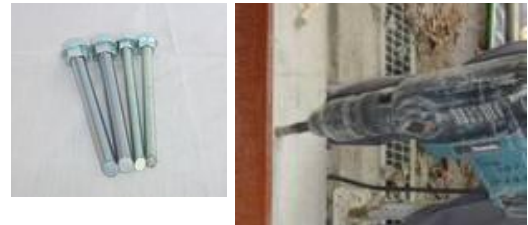
孔内清掃



カプセル挿入



ボルト埋め込み・硬化養生



工場の天井クレーンの電源OFF、使用の無いことを施工側へ確認後に施工に取り掛かる。

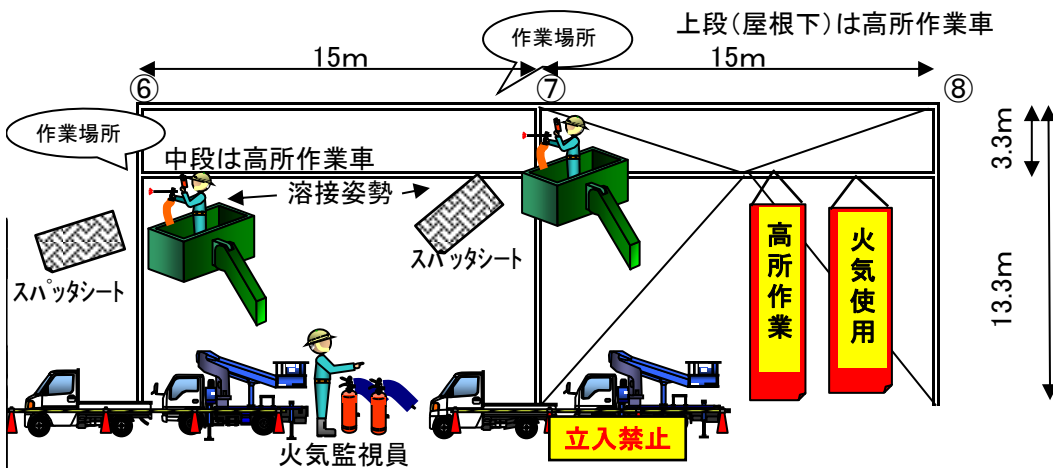
1. 高所作業車設置

17mトラック積載式 1台をB通り⑧→⑦→⑥通り柱前に順に設置する。

2. 上段と中段のプレスシートの取付け(ケレン～溶接)

B通り⑥と⑦柱 (上・中段)

- 安全のポイント**..
- 上段・中段共に溶接火花の養生はスパッタシート等で確実にを行う。
 - 溶接機を積載したトラックと作業エリアをカラーコーンとバーで区画する。
 - 下部に消火器・水バケツ設置、火気監視人を1名配置する。
 - 溶接面・溶接用マスク・革手袋等の保護具を装着して溶接を行う。
 - 発電機付き溶接機のボディアースの設置を行う。
 - 高所作業中、火気使用中の垂れ幕を掲げる。



半自動溶接機
トラックに積載して使用

CO2/MAG溶接機
(エンジン式・ガウジング兼用)

工場の天井クレーンの電源OFF、使用の無いことを施工側へ確認後に施工に取り掛かる。

1. 高所作業車とクレーンを設置する。

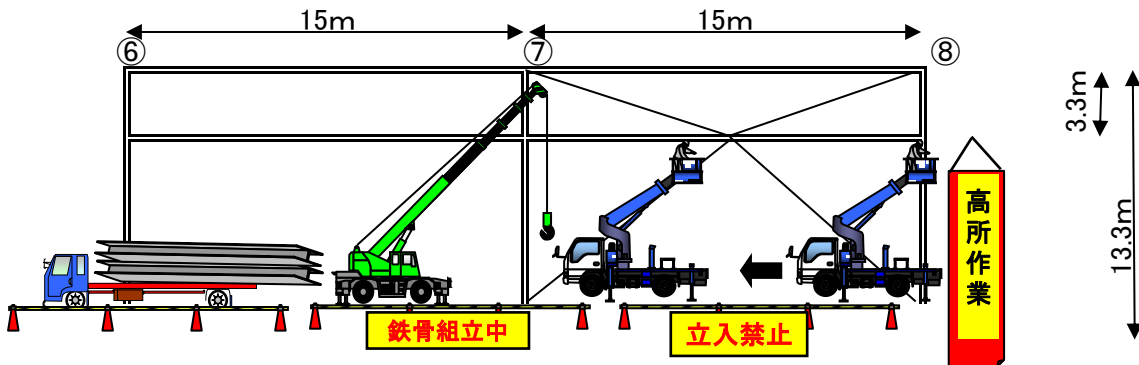
- 安全のポイント…
- 高所作業車とクレーンは水平な強固な地盤に配置して、アウトリガーを最大張出しする。
 - 高所作業車とクレーンは作業場所にカラーコーンとバーで区画をする。
 - 高所作業中の垂れ幕、鉄骨組立中の看板をカラーコーンに掲示する。
 - クレーンオペへの玉掛合図は無線を使用する。
 - 高所作業車とクレーンのブームが接触しないように監視員の配置と旋回方向取付け・取外しの順序をTBM時と作業の変化点時に周知を行うこと。

2. 基礎鉄骨取付けとプレス移設作業

- 安全のポイント…
- 玉掛後はトラック荷台から降りて玉掛合図を行う。
 - クレーンブームが既設建て屋に接触しないように合図者以外の2名は上部と周囲を目視で常に監視する。
 - 鉄骨の下部に手足を入れないうえに、作業姿勢は鉄骨材と平行に保つ。
 - 本締め作業はレンチの筒先に手を添えずに本体部分を持つこと。
 - ボルトを緩める時はレンチの筒先に手を添えずに本体部分を持つこと。
 - 鉄骨材の玉掛治具はネジ式クランプとワイヤーを使用し締付けの確認を合図前に合図者が行う。
 - 取外した鉄骨材からボルト・SPLの落下防止のため全て外して高所作業車に載せる。
 - 両側に介錯ロープを掛けて鉄骨材が回転しないように補助をする。

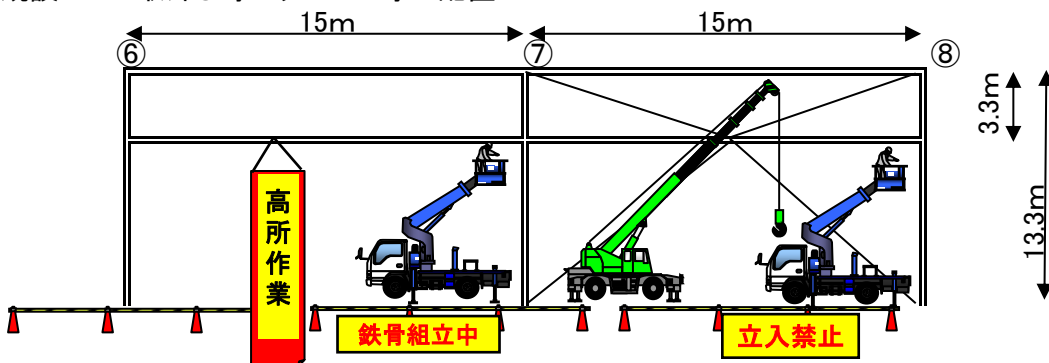
【1】⑥-⑦間の基礎鉄骨取付け

- (1) 16tRを⑥-⑦間に設置する。 (資料は巻末にカタログ添付)
 - (2) トラック搬入、荷下し、地組(取付け位置で行う)、水平と長さを確認後に本締めを行う。
 - (3) アンカーボルトを締付け。レベル保持のため鉄筋で支持する。 **※基礎工事と事前に照合する。**
- 基礎鉄骨取付け、既設プレスのボルト取外し時のクレーン等の配置



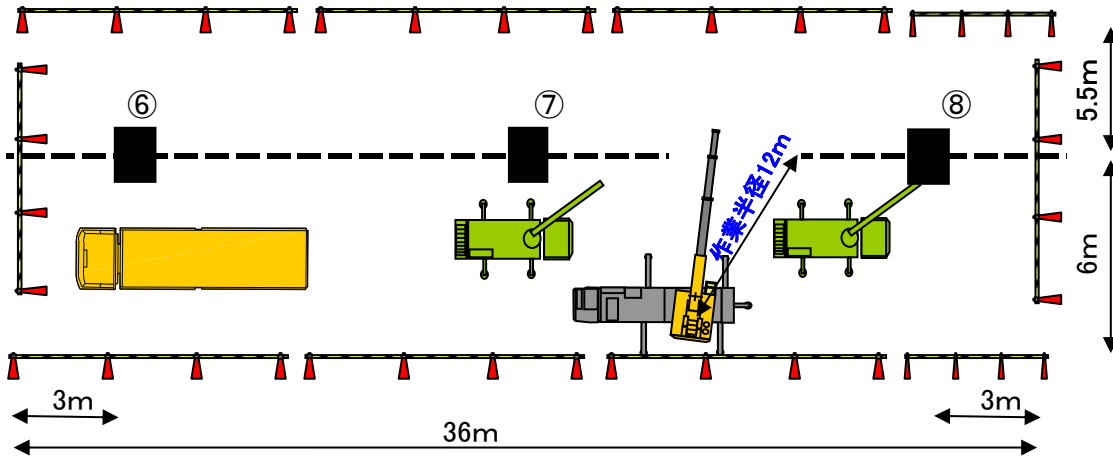
【2】⑦-⑧間の既設プレスの取外し段取り

- (1) ナットランナーを逆回転またはインパクトレンチを逆回転してボルトを緩め、2本を仮ボルトに取替えて、それ以外のボルトは外しておく。
 - (2) 16tRを⑦-⑧間に配置して、⑦と⑧柱付近に17mブームトラック式高所作業車を設置する。
- 既設プレス取外し時のクレーン等の配置



工場の天井クレーンの電源OFF、使用の無いことを施工側へ確認後に施工に取り掛かる。

【3】高所作業車とクレーンの平面配置図

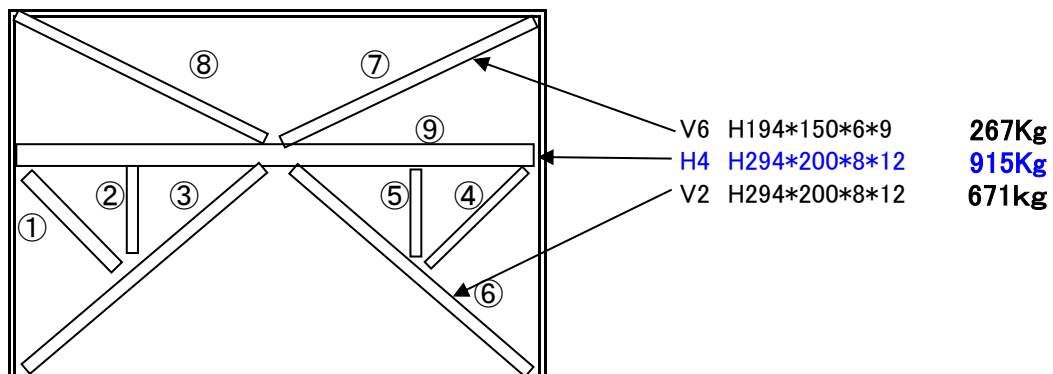


【16tクレーンの選定基準】

H4=915kg(H294*200*8*12)の吊荷中心からクレーン旋回中心までの距離12m
 アウトリガー最大張出し・ブーム長さ19.1mの時、定格総荷重2.45t
 主・補巻きフック重量200kg+吊り具50kg=250kgを差し引いて最大荷重2.2t

H4材(0.915t) < 最大荷重2.2t

【4】取外し順序 ①→②→③→④→⑤→⑥→⑦→⑧→⑨



【5】取付け順序 ①→②→③→④→⑤→⑥→⑦→⑧→⑨

